

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 子どもの貧困対策について (20分)</p> <p>子どもの貧困率について、いわゆる貧困率とは、世帯収入から国民一人ひとりの所得を試算して順番に並べたとき、真ん中の人の所得の半分(貧困ライン)に届かない人の割合をいい、子どもの貧困率は、18歳未満でこの貧困線を下回る人の割合をいいます。</p> <p>厚生労働省調査によると、子どもの貧困率について、1985年は10・9%であったものが、2012年(平成24年)は過去最悪の16・3%となり、およそ6人に1人が貧困という結果となりました。18歳未満の子どもの6人に1人、300万人あまりが貧困状態にあるとされています。その際の貧困ラインは122万円でした。</p> <p>中でも深刻なのは母子家庭などの「ひとり親世帯」の子どもで、貧困率は54・6%、2人に1人を超えています。</p> <p>国においては、2013年「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が作られ、その具体的な対策を定めた大綱が昨年2014年に示されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①貧困の世代間連鎖の解消と積極的な人材育成 ②子供に視点を置いた切れ目のない施策の実施等に配慮 ③子供の貧困の実態を踏まえて対策を推進 ④子供の貧困に関する指標を設定とそれらの改善に向けた取り組み ⑤学校をプラットフォームとした総合的な子供の貧困対策、貧困の連鎖を防ぐための幼児教育の無償化及び質の向上、奨学給付金制度などによる教育支援 ⑥保護者や子供に対する生活支援、就労支援及び手当制度の充実等による経済支援など <p>これらを受けて、東京都足立区では今年度から、子どもの貧困対策に取り組む専門の部署を設けて、「早期発見・早期支援」に取り組む、兵庫県明石市では、昨年「こどもの貧困対策検討チーム」を設置しています。</p> <p>(1)鶴ヶ島市のこどもの貧困に関する実態把握について。 ア実態把握の現状について。 イ「就学援助」を受ける小中学校生徒数とその経緯、全体の割合。</p> <p>(2)鶴ヶ島市のこども貧困対策についての施策と成果について。</p> <p>(3)鶴ヶ島市のこども貧困対策に関する基本方針について。</p> <p>(4)国の大綱に掲げられた教育支援、生活支援、就労支援、経済支援を踏まえた施策事業の検討について。</p> <p>(5)鶴ヶ島市こどもの貧困対策基本計画の策定について。</p> <p>(6)鶴ヶ島版「こどもの貧困対策検討チーム」の取り組みを。</p>	<p>市長 教育委員会委員長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>2 鶴ヶ島を明るくする、計画的な道路照明整備を (15分)</p> <p>市道547-1号線、市道758号線など市内の目抜き通りの点検を行いました。また、全てではありませんが、市街地を改めて歩いてみました。</p> <p>市道758号線の特に若葉駅から市道160号線までの間、市道438号線から県道川越越生線の間は特に暗く、また、市道547-1号線も関越自動車道から県道川越越生線間も暗く、しかも低木の植栽が歩道の4分の3を占めており、自転車が通れば人がよけられない状況です。</p> <p>市街地においても、大型店舗等の近くは、店明かりが消える閉店してから極端に暗くなっている所、道路照明灯と防犯灯が重なっているような所もあります。学校の照明が道路照明を担っているところもあります。また、暗くても電信柱がないところは、暗いままで、電信柱ごとに防犯灯がついているところがあります。必要だからつけるよりもつけやすいところからつける傾向を強く感じます。全体的な計画に基づいた整備がなされていないのは明白です。本年度、都市整備部での所管に統一されますが、抜本的な対策が求められます。</p> <p>(1)市道547-1号線は、なぜ暗いのですか、対策は ア藤金の農家との約束の有無について。 イ平成12年の私の一般質問以来改善がなされましたか。 ウ低木の植栽はすぐにでも整備をして歩道の幅員の確保を。</p> <p>(2)市道758号線は、自転車道の整備など都市計画道路として最新に整備がなされた場所が含まれますが、無計画に暗いのはなぜですか。また、平成27年度3基の防犯灯が整備されるとの事ですが、どこですか。さらなる対策は。</p> <p>(3)市内全体の防犯灯、道路照明灯の計画的な整備について。 ア学校の照明の役割の明確化について。 イ市民センターの照明、公的な施設の門燈、一般住宅の門燈の役割。 ウ市内全体の防犯灯、道路照明灯などの計画的な整備を。</p> <p>(4)環境省(一般社団法人低炭素社会創出促進協会)の導入調査や整備費用の補助を活用してリースでの全防犯灯のLED化について。</p>	<p>市長 教育委員会委員長</p>
<p>3 新しい人事、給与制度の導入について (15分)</p> <p>大阪府箕面市では、平成27年度から人事・給与構造改革を実施しております。給与制度において、「年齢と処遇の一致」から「責任と処遇の一致」へ「給料表」を大きく転換し、人事制度において、上司のみならず、同僚・部下を含め、10人程度の職員がそれぞれの職員の働きぶりを評価する「多面評価」と、全部局の部長級等の職員が一堂に会して大激論のうえ決定する「評価調整」により、客観性・納得性を上げた評価制度を導入、</p>	<p>市長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>それらにより、真に頑張る職員が報われる公務員制度の構築をめざすとされています。</p> <p>(1) 頑張る職員に責任と仕事だけが押しつけられて、その一方で、そうでない職員も「給与だけは同様に上がっていく」ということが往々にしてありました。「頑張っても、頑張らなくても給与は同じ」、「頑張ったら損」みたいな組織の風潮があるのも事実です。とは、箕面市の市長政策室部長の弁です。</p> <p>「年功序列」を基本とした人事・給与制度について鶴ヶ島市の状況と見直しへの考えは。</p> <p>(2) 箕面市は、給料表の「重なり」をゼロにして、上位の職の給料は必ず下位の職の給料を上回るようにしていますが、鶴ヶ島市の状況と見直しの考えは。</p> <p>(3) 管理職手当も最大8万円の差額にするように見直していますが、管理職手当の見直しについて市の考えは。</p> <p>(4) 退職手当の見直しについて、箕面市では、退職直前の5年間の算定から、入職から退職までのすべての期間での算定としております。給与表の見直しが行われれば同時に見直すようになりますが、退職手当について市状況と見直しの考えは。</p> <p>(5) 人事評価について、箕面市では、多面評価(360度評価)の導入し、所属長45%、上司25%、同僚5%、部下15%、業務上のつながりのある他課の同僚10%(5%の比率で2人)での比率で評価をしますが、鶴ヶ島市の人事評価の状況と見直しへの取り組みについて。</p> <p>(6) 人事・給与制度構造改革について、プロジェクトチームでの取り組みを。</p>	
<p>4 鶴ヶ島第一小学校に防球ネットの整備を (10分)</p> <p>運動施設が相対的に脆弱だと言われる鶴ヶ島市にとって、校庭開放による少年サッカー、野球クラブの利用は子どもの健全育成の為にも有用です。</p> <p>しかしながら、鶴ヶ島市で明治26年5月25日を開校記念日とし昨年開校125年を迎えた鶴ヶ島第一小学校の防球ネットが脆弱です。県道とも面しており、早急の対応が必要だと考えますが、教育委員会の取り組みについて。</p>	<p>教育委員会委員長</p>